ちいさな証

CD「ほんとうの願い」に寄せて

私が今回このＣＤを録音するきっかけになったのは私の個人的な思いによるものです。

私の最愛の義父、村上幸夫兄が胆管癌に罹って余命半年から１年と宣告されたのは今年の2月末のことでした。

毎年ヨーロッパに来ていたあの元気な義父が癌に罹り、しかも余命がそんなに長くないという事は信じられませんでしたし、受け入れがたい事でした。そんな義父に私は何ができるのか。実際何もできなくても何かせざるを得ない気持ちになりました。

私はそこで1曲を彼の為に作曲しました。タイトルは「ボン・レタブリスマン」Bon Rétablissement　と言い、病気になった人にかけるフランス語の言葉で、ドイツ語ではGute Besserung　日本語にはないニュアンスですが「お大事に」という意味です。

ピアニストである義母に演奏してもらうようにお願いし、３月に義母と義父に楽譜を送ったのですが、精神的にも時間的にも余裕の無い義母がテオルボ(リュート族の楽器、別名バスリュート)の為に書かれた曲をピアノで演奏することは無く、楽譜を読めない義父にとってはあまり意味がありませんでした。

実際に私が日本に行って義父の為に演奏すればいいのですが、なかなか実現は難しく、私がテオルボで録音して義父に聞かせるのが一番と思いました。どうせ録音するならいい機材でハイクオリティのものを、しかも１曲だけではなく、１枚のＣＤを制作するという想いが沸きあがって、数週間色々と想いをめぐらしました。

実は私は２,３年前から御言葉を題材に賛美曲を作詞作曲していました。そして、去年秋に初めて私の作詞作曲を賛美歌手の工藤篤子姉に歌って頂き、一緒にコンサートをしました。その時以来の曲が１０曲になり、これに馴染み深い賛美曲を混ぜて「神様への証」としてのＣＤを制作したいと思うようになりました。

また義父をとても慕っていた１６歳の息子、詩門にバイオリンで参加してもらう事で義父の気持ちも更に癒されるのではと思いました。このことを早速、工藤篤子姉に打ち明け、姉に歌っていただけないかお尋ねすると快諾してくださいました。

準備をしていくうちに、これは村上幸夫兄に捧げたいという願いから録音を決めたにも拘らず、私の願いが、主の導きの中で、病床にいる私の母、そして私の愛する全ての人に、また私のまだ知らない人、一人でも多くの人にＣＤを通して「神様の思い」、御言葉、即ち「福音」を伝えたいという思いに変えられて行きました。

また工藤篤子姉とリハーサルを重ねるごとに、神様に一生を捧げられた彼女の歌に私自身が感銘を受け、音楽を通して福音を伝える素晴らしさと喜びを知りました。ＣＤは、神様が大切な御子イエスをお与えになった曲、ヨハネ第一の手紙4章9節の「神のひとり子」から始まります。

神のひとり子

ヨハネ第一の手紙4章9節 / 今村泰典 作曲
(2011.03.09)
(今村幸子氏に捧げる)

神はそのひとり子を　世に遣わし
その方によって　わたしたちに
いのちをえさせてくださいました
ここに神の愛が私たちに
示されたのです

また３曲目にはこのＣＤのタイトル「ほんとうの願い」が入っています。神様によって造られた私たちの本当の願いは、実は神様の願いそのものです。その願いを知っていますか？

ほんとうの願い

今村泰典 作詞・作曲（2011.05.17）

私たちの喜びはお互いに愛し合うことです　それが神様から　与えられた
私たちのほんとうの願いです
憎まれる時も　傷つけられた時さえも
赦し合えるなら　幸せで満ちるでしょう

私たちの喜びは　神様を信じて生きることです　それが神様からいただいた
私たちのほんとうの幸せ　とても傷ついて　死にたくなった時さえも
自分を赦せるなら　それは神様の愛

とても苦しくて　死にたくなった時さえも　神を信じてゆだねよう
それは神様の願いです
神様の願いです

１０月１日に発売されるＣＤを義父が手にする事はできないかもしれません。ですが神様がもっと大きな目的をもってこのＣＤをお使い下さると思います。

このＣＤを日本人の為だけでなく、あらゆる方に聴いて頂こうと、英語、ドイツ語そしてカタロニア語で歌われている賛美歌を織り交ぜ、またジャケットの歌詞と解説も日本語、英語およびドイツ語の３ヶ国語で掲載させていただきました。このＣＤを手にする全ての方に福音が宣べ伝えられる事を願ってやみません。

今村泰典
スイス日本語福音キリスト教会会員